２０１８年度教育研究活動報告用紙（様式９(2018)）

氏名　　目野　郁子	職名　　教授	学位　博士（医学）（九州大学 1994 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
病原微生物学　　免疫学	微生物　　感染症　感染対策　　予防接種　　抗体

研　　究　　課　　題
・ワクチンで予防可能な成人感染症、特に百日咳について成人女性を対象にジフテリア・破傷風・百日咳（DTaP）ワクチン接種後の百日咳抗体の持続状況について長期に渡る縦断研究を実施している。

担　　当　　授　　業　　科　　目
感染と免疫（前期）（看護） 生物と生命科学（前期）（看護） 生物と生命科学（前期）（福祉） 初年次セミナーI（前期）（看護） 生活と環境（前期）（福祉） 生活と環境（前期）（栄養） 初年次セミナーII（後期）（看護） 微生物学（後期）（福祉）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【感染と免疫：看護】 ① 看護師国家試験受験資格を得るための必須科目であり、学ぶ内容も多く１年生にはかなり難しいである。そのため科目の狙い・到達目標を丁寧に説明した。 ② 学習準備を早期から促し学習量を増やすため、講義回数半ばで小テストを導入した。 ③ 興味関心を持たせるため、タイムリーな話題の感染症事例やトピックススを教科書の内容にプラスし説明を行った。 ④ 講義途中に学生に質問をし、挙手により反応をみた。理解度が不十分な箇所は繰り返し説明した。また、講義終了後には質問を受ける時間を設けた。 ⑤ 実習には国家試験を意識した内容を含めた。
授業科目名【生物と生命科学：看護】 ① 学生の学習量（復習を重視）を増やし、講義内容の理解を確実にすることが専門科目につなぐために必要と考え以下の取り組みを行った。 ② 本試験前にミニテストを３回実施した。1、２回目のミニテストは、テスト終了後に正答を導くまでのプロセスをパワーポイントで示し解説した。解説モデルを提示した後、３回目のミニテストを行い、成績評価を行なった後、その解説をレポートとして提出させた。 ③ 評価項目は、講義途中に繰り返し説明した。特に、解説レポートの作成については、他科目の教科書や参考図書を使うよう指導した。また、提出期限が他科目の提出物と重ならないよう配慮した。

授業科目名【生物と生命科学：福祉】

① 興味関心をもつことを一番とした。特に講義では〝生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)〟に焦点をあて説明した。

② 今年度から、学習準備を早期から促すため講義回数半ばで小テストを導入した。

③ 学生の講義内容の習熟を図るため講義の最初に前回の講義の復習を行なった。また、講義中に項目ごとに質問を投げる、受ける機会を作った。

④ レポート課題は、事前に講義を行った後、調べ学習をし、グループディスカッションにより知識の定着を図った。

授業科目名【初年次セミナーI：看護】

① スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の修得は、ミニレポート作成からレポート作成へとレベルをあげ段階をおってすすめた。レポート作成にはグループ学習を取り入れ、学生間でコミュニケーションをとり意見交換しながら取り組むようにした。

② 毎回の講義の概要や疑問点・調べたことなどを500字程度にまとめさせた。また、学修ポートフォリオを作成させ、主体的学習を促すとともに学修の達成状況をチェックした。

③ 学習修得に向けモチベーションの向上を目指し、学外の実習施設(医療機関)から実習指導者を招き講演をしていただいた。

④ 科目の評価視点は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示し説明を加えた。各自に印刷物として配布した。

⑤ 情報倫理や図書・文献の検索法などの講義は、情報課および図書課と連携し行なった。

⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容及び成績評価に差が出ないようにした。

授業科目名【生活と環境：福祉・栄養】

① 福祉学科では、受講生の75%が3年生であり、実習で講義を欠席することがある。その補てんとして講義の最初に前回までの講義の復習を行う時間を設けた。また、習熟度に差が出ないよう、重要な箇所は繰り返し説明し、その際に質問を受ける時間を設けた。

② 栄養学科では、受講生全員の受講動機が単位を確保するためであった。いかに興味関心を持たせるかを課題に、従来の内容に食料問題など栄養に関する内容を新たに含め講義を行った。

③ 講義内容の理解を深めるために、グループ学習を行い、意見交換をさせた。

授業科目名【初年次セミナーII：看護】

① 初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。

② 個人ワーク、グループワークを取り入れた演習を行なった。具体的には、グループで一つの課題に取り組み、章立てし、各自が一つの章を担当して一つの冊子づくりを行なった。冊子づくりを行なうことで、各自が全体を把握しながら自分の担当に責任をもち取り組むことができたと考える。

③ 初年次セミナーIで学修した基礎的知識・スタディスキルズ（聞く、調べる、読む、書く、考える）の学びを基礎に、「発表する」「討論する」を強化するために、レポート作成とそのテーマでプレゼンテーションをする機会を設けた。

④ さらに、上記冊子にまとめた内容について、レジュメ作成、パワーポイント作成、発表原稿作成を行ない、プレゼンテーションをさせた。課題発見から発表までの一連のプロセスをグループで取り組むことで、他者の意見を聞き、自分の考えを述べる機会となり、スタディスキルズ（聞く、考える、討論する）の強化につながった。また、司会・進行など経験させることで、役割意識をもたせた。

⑤ 評価は、DPにそって評価指標を作成し、事前に学生に明示して説明を加えた。学生は自己評価を行ない、自己の振り返りを行なうことができていた。

⑥ 本科目は10名の教員で担当する科目である。初年次I同様に詳細な打ち合わせを行なうことで講義内容および成績評価に差がでないようにした。さらに、プレゼンテーションでは、教員2名～3名で評価を行なうことで、評価に差がでないようにした。
授業科目名【微生物学：福祉】 ① 本科目の該当DP、授業概要、達成すべき行動目標と達成目安については、パワーポイントを用い、印刷物を配布し説明した。また、養護教諭免許取得のための必須科目であるため、科目のカリキュラム上の位置付けについても丁寧に説明した。 ② 資格取得に必要な科目のため講義の内容量が多い。そのため今年度から講義回数半ばで小テストを導入し学習意欲とモチベーションを持続させる工夫をした。また、学生の理解度の把握に役立てた。 ③ 基礎的な事項から始め学校現場を想起できるよう感染症事例を展開し講義を実施した。また、将来の就職先にもつなげるよう子どもや高齢者の感染症について最近のトピックスを中心に講義を行った。 ④ 質的・量的にかなり重たい講義のため、講義内容を整理するために講義進行にそって数回重要ポイントを提示し自主学習を促した。 ⑤ 講義の理解度を測るため、講義中に教員側から積極的に質問をした。学生の理解度が低いと思われた箇所は繰り返し説明した。また、学生にも声かけし質問をうける体制を作った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本細菌学会 日本感染症学会 日本小児保健協会 日本環境感染学会 日本ワクチン学会		1987年4月～現在に至る 1996年4月～現在に至る 2000年4月～現在に至る 2004年4月～現在に至る 2016年4月～現在に至る

２０１８年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表）				教育研究業績 (2018.4.1− 2019.3.31日現在) 著書 0 （内訳 単 0 共 0） 学術論文 0（内訳 単 0 共 0） 報告書 0（内訳 単 0 共 0） 学会発表 0（内訳 単 0 共 0）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 〇代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
なし	なし	なし	なし

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　容)	役 職 名 等	任　期 期　間　等
・福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県食品安全・安心委員会」において，食品の安全・安心の確保に関する基本計画等について調査審議する。 ・北九州養護教諭のための勉強会 養護教諭を対象に「小児感染症とその予防-予防接種について-」というテーマで講演・研修を行なう。	委員	2017年5月1日～2019年4月30日 2018年10月27日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・ 人事委員会委員　2017年4月1日～ 現在に至る ・ 動物実験委員会委員　2016年4月1日～ 現在に至る ・ 保健福祉学部付属保健福祉学研究所運営委員 2003年4月1日～ 現在に至る ・ 公的研究費内部監査部門担当者　2017年2月～ 現在に至る ・ 西南女学院100周年記念誌出版委員会委員 2018年7月～現在に至る ・ 学生の健康支援 保健福祉学部、人文学部、および助産別科の各1年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なっている（2011年～現在に至る）。 2018年5月～2018年12月、5回実施 ・ 看護学科1年生アドバイザー責任者 2018年4月～2019年3月 ・ 保健福祉学部福祉学科2年生講義：学外実習前に「感染症および感染症予防対策」について講義を行なう。 2018年12月6日、講義1回